女性総合医療センター

科長のメッセージ

近年、"性差を尊重した医療"の概念が広まりつつあり、女性の特性を考慮した診療体系の充実が求められています。そしてそれを請け負う医療側がすべて女性であるということにより、よりわかり合える医療が提供できることを約束できるサービスが必要であると考えました。またいつまでも健康に、医療に携わるために、女性医師は自分の身体もプログラムの対象に考えてほしいと思います。

コーディネーター

鈴鹿 有子（すずか ゆうこ） 特任教授（併）

- 専門分野
  耳鼻咽喉科学
- 得意な分野
  難聴、めまい、音声障害
- 職歴
  関西医科大学助手（1980）、米国ハーバード大学医学部研究員（1985）、世界保健機関（WHO）本部　難聴予防科コンサルタント（1992）、大阪北逓信病院部長（1995）
- 主な所属学会
  日本耳鼻咽喉科学会、日本耳科学会、日本気管食道科学会、日本平衡神経科学会、日本小児耳鼻咽喉科学会、日本WHO会、Hearing Internaitonal、International Otopathology Society、日本生体磁気学会、日本聴覚医学会、Pan Pacific Surgical Association、女性医療ネットワーク
- 各種資格
  日本耳鼻咽喉科学会専門医、日本耳鼻咽喉科学会認定騒音性難聴担当医、補聴器適合判定医
- 研究課題
  聴覚アンチエイジング
- 研究の概要
  聴覚を利用して脳の活動を調べるために聴覚誘発脳磁場を計測している。これは耳から音を聞かせることで、左右脳半球が活動する様を磁気でとらえようとするものである。現在までに聴性誘発反応の多様性、言語野における左右脳半球の反応性の違い、利き手・聞き耳との関係などを研究してきた。今後は聴覚を使って脳を活性化することを、健聴者、難聴者、補聴使用者で証明しようと試みている。

概要

1. 背景と趣旨

人間には男性と女性の二つの性がありますが、それぞれがたいへんな違いをもっている。臓器そのものの違いもありますが、男性ホルモン、女性ホルモンといった違いがあることはだれでも知っている。女性には子供を妊娠して産み、育てて人類を繋いでいくという大切な任務がある。そのため思春期からは生理が始まり、妊娠・出産の準備をする。出産の後は育児、それを終えて、さらに更年期を迎え、老年期に入るまで、永い生涯に起こる女性特有の症状や病気はきわめて多様である。年齢だけでなく、生活スタイルの健康への影響も男性と大きく異なる。しかし、これまでの医療は女性の特性を踏まえた医療サービスとしては充分ではなかった。近年、男女の違いを考慮した"性差医療"に関心が高まってきた。性別によって病気の症状や治療法、効果が異なることがわかってきたからである。女性に特有の病気や発症率の高い病気などに着目し、予防や治療を行う女性の特性を考慮した診療体系の充実が求められている。さらにそれを請け負う医療側がすべて女性であるということにより、よりわかり合える医療が提供できると確信している。と同時に、女性の健康を支える環境の整備に目覚めるべきで、倫理面に加え、社会面での発達も必要とされる。

指導担当医

赤澤 純代（あかざわ すみよ）
助教
- 専門分野
  性差医療、アンチエイジング、漢方医学
- 学会活動
  女性医療ネットワーク理事、日本性差医療学会、日本アンチエイジング学会評議員、日本内科学会、日本糖尿病学会、性差医療ネットワーク、日本女医会評議員
- 得意な分野
  性差療法、女性医療、漢方

鴨田 佐知子（かもだ さちこ）
助教
- 専門分野
  神経科精神科
- 学会活動
  日本医師会認定産業医、日本精神神経学会認定指導医、精神保健指導医
- 得意な分野
  生活習慣病治療、性差医療、漢方治療、ピル、ストレスケアテクニック

プログラムの目的

"女性の生涯にわたる健康のサポートをめざして"

女性スタッフにより、女性の特有の身体・精神症状を総合的に診療し、必要に応じて専門治療への導入を支援することで、女性患者の皆様への医療サービスを提供する。それには性差医療としてのしっかりした知識を習得し、多岐にわたる医療科学を集め、それを統括する医療概念の組み立てが必要となる。新しいプログラムを新しいセンターで、組み立てながら前へ進むという可能性を含んでいることを強調したい。

対　象

- 自律神経失調症状：立ちくらみ、めまい、冷え症等
- 更年期症状：のぼせ、ほてり、頭痛、肩こり、動悸　等
- 精神的症状：不安、不眠、イライラ、うつ状態　等
- 胃腸症状：便秘、下痢
- 肥満
- 糖尿病
- 乳がん
- 子宮がん
- いびき、睡眠時無呼吸症候群
- アンチエイジング
- 美容
- 禁煙
- その他：骨粗鬆症、高脂血症、生理不順、女性の気になるあらゆる症状

主な検査

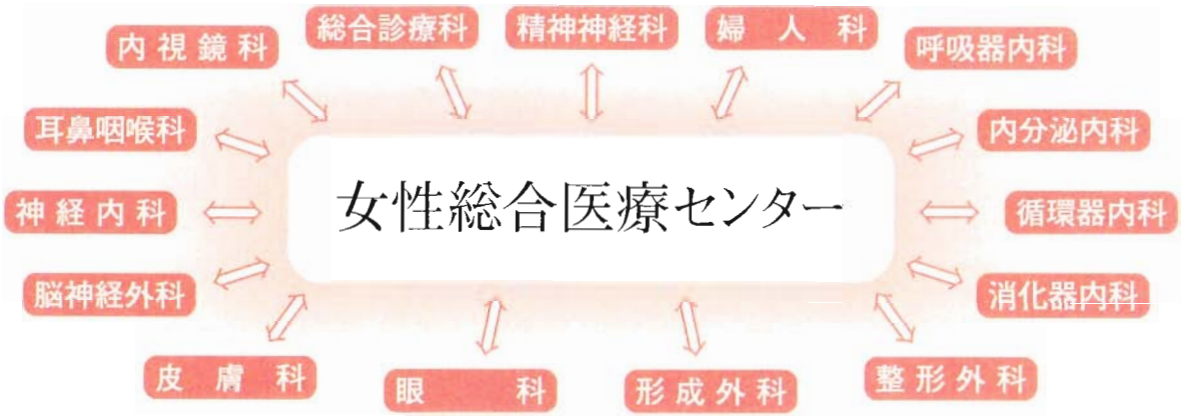
血液学的検査、女性ホルモン検査、婦人科検査、骨密度検査、メンタル検査、バランステスト、内視鏡検査、画像検査

金沢医科大学女医会と女性総合医療センター

金沢医科大学においては平成6年7月から女性医師のために設立された金沢医科大学女医会があり、日本に医科大学では唯一のものである。「水月（みなづき）会」と命名され、働く女性医師の環境の整備を目的として作られ、16年目を迎える。また以前からわが大学は女子医学生の割合が多くて、それはますます加速している。女子医学生の数は各学年を通して40%を超え、全国と比較しても10%は優っている。当然女子医学生にとって特別な育成の機会が与えられるべきである。ここに女性というキーワードで医師も学生も同じ目標を掲げるにいたった。それはこの大学の特徴をいかした医師の育成、特別なプログラム、独自の需要を持って、それを教育、育成に生かさねばならない。卒後におけるキャリア支援、女性研究者の支援、さらに女性医療のリーダーの育成をめざす教育も可能である。またそれは決して女性向けではなく、男

性医師、男子医学生への教育プログラムになる。女子医学生の教育と育成のため、その核となるセンターの設立の必要不可欠になり、2009年4月に設立された。

金沢医科大学病院においては2003年3月より女性外来が開設された。当時は全国的にも女性外来をかかげる施設は珍しく、もちろん石川県では初めてで、2005年5月より、女性外来が生活習慣病センターへ移籍、センターの前身となった。

集学的支援体制

対象となる病態は性差に特化した内科的診療、外科的診療、婦人科的診療、メンタルヘルス、カウンセリング等極めて広範囲にわたり、女性総合医療センターはまさに集学的診療の代表的領域である。専任の担当医を充実するとともに、各領域の専門医も深く連携している。